

【文学研究科教育学専攻】

教員養成に対する理念・構想

小学校専修免許課程

文学研究科教育学専攻が養成しようとする基本的教師像は、研究者としての教員 (teachers-as-researchers) である。すなわち、教育の現場において、各々の教育実践を、理論的・実証的・実験的・歴史的に研究する力量をもち、その成果を、自らの教育実践へと適用していくことが可能な教員の養成である。

この理念の実現のために、教育学専攻において専修免許状の取得を目指す者は、最初に、教育学研究についての展望と基本的スキルを習得する科目（教育学原典購読および教育学研究法）を履修する。その後、二人の指導教員のもとで、それぞれの研究テーマを探求すると同時に、現在の日本の教育諸問題について、その基本的な理解と同時に、自らの研究テーマとの接点を見据えた探求をおこなう、というカリキュラム構造になっている。

以上のような基本的教師像のもと、小学校課程では、特に、以下の諸点に留意した小学校教員の養成を目指している。

- (1) 教科担任制に耐えられる教員の養成。国語・算数・社会については、十分な専門知識を有すると同時に、上記の「研究者としての教員」という基本的教師像にかなう力量をもった教員を育成する。
- (2) 既に実施が予定されている学制改革（一方で、幼稚園5歳児クラスの実質的な義務教育化、他方で、小中連携事業の発展としての、小学校上級学年のミドルスクール化）を視野に入れた、新たな幼児・児童教育への知見を有した教員の養成。このために、児童理解、児童期の自己形成、障害児教育について最新の研究成果を踏まえた学習が可能になっている。
- (3) 教科化が実現した「道徳」（「特別の教科である道徳」）について、これを、近代教育学の地平にまで遡って吟味することで、「考え、論議する道徳教育」への転換を担う教員を養成する。

中学校専修「社会」、高等学校専修「公民」課程

文学研究科教育学専攻が養成しようとする基本的教師像は、研究者としての教員 (teachers-as-researchers) である。すなわち、教育の現場において、各々の教育実践を、理論的・実証的・実験的・歴史的に研究する力量をもち、その成果を、自らの教育実践へと適用していくことが可能な教員の養成である。

この理念の実現のために、教育学専攻において専修免許状の取得を目指す者は、最初に、教育学研究についての展望と基本的スキルを習得する科目（教育学原典購読および教育学研究法）を履修する。その後、二人の指導教員のもとで、

それぞれの研究テーマを探求すると同時に、現在の日本の教育諸問題について、その基本的な理解と同時に、自らの研究テーマとの接点を見据えた探求をおこなっていき、というカリキュラム構造になっている。

以上のような基本的教師像のもと、社会科教員（中学校社会・高校公民）については、特に、以下の諸点に留意した教員養成をめざしている。

- (4) 「研究者としての教員」の養成のために、複数の科目でPBL型授業の手法を導入している。
- (5) 心理系・カウンセリング系の科目を特論科目群の中を含めることで、中学・高校教員にとって必要な、現場での学習指導以外から生じる問題への対応、とりわけ、保護者や地域住民への対応の問題を扱う科目を設置している。
- (6) 進展が著しい中学・高校における教育の情報化・グローバル化について、単に「対応」ではなく、教育の情報化・グローバル化がもたらした問題を的確に分析・考察できる教員を養成する。